



# 英語文献収集のための新聞記事データベース活用



江竜 珠緒

## 抄録

「朝日けんさくくん」などの新聞記事データベースでは和英対照の社説や天声人語等を読むことができるため、イングリッシュ・プレゼンテーションのためのテーマ探索、英語文献収集の助けとなる。便利なツールであるとの認識が浸透すれば、その後は自発的な利用が増えていく。

## <キーワード>

NIE, 学校図書館と英語科との連携, イングリッシュ・プレゼンテーション, 英語文献収集

## 1 はじめに

明治大学付属明治高等学校中学校は、明治大学唯一の直系付属校として、建学以来の「質実剛健」「独立自治」の精神を継承しつつ、創造性や個性を伸ばすことを通じて、21世紀を担う「生きる力」を養うことを教育方針としている。約1300名（中学500名、高校800名）の生徒が在籍している共学校である。図書館は中学、高校の共有で、約500平方メートル、2、3階分高さ6メートルの開放的な空間で、蔵書数は約5万5千冊、うち5千冊が英語多読のための洋書である。



写真1 英語多読本

蔵書は全てデータベース化されており、洋書に関してはレベル、語数での検索も可能である。また、館内には検索用のデスクトップパソコンが4台（うち1台は外部接続可）あるほか、生徒用の館内利用ノートパソコンが40台あり、インターネットに接続して百科事典データ

ベース、新聞記事データベース等の利用が可能である。なお、蔵書検索をはじめ、各種データベースは校内であればどこからでも自由に利用できる。

## 2 図書館でのNIE

本校図書館では朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、Asahi Weekly、MAINICHI Weekly、中学生ウィークリー等、日刊、週刊の新聞12紙を購読している。加えて、図書館外の廊下にはNIEのためのスペースをとり、生徒の興味関心を引きそうな新聞記事を掲示している。



写真2 新聞記事スクラップの授業風景

さまざまな教科と連携して、新聞、図書、参考図書のそれぞれの違いや使い方を指導したり、レポート作成の方法について指導したりすることがあるが、新聞に関しては、スクラップの方法や新聞記事データベースの利用方法を指導している。中でもよく新聞記事データベースを活用しているのは英語科との連携で行うイングリッシュ・プレゼンテーション・コンテストの事前準備である。そこで今回はこのコンテストの概要と、生徒がそこでどのように新聞記事データベースを活用しているのかを紹介していきたい。

## 3 イングリッシュ・プレゼンテーション・コンテスト

本校では、2012年に100周年を迎えたことを契機に、

ERYU, Tamago : 明治大学付属明治高等学校中学校（東京都調布市富士見町 4-23-25）

中学3年生、高校1年生を対象としたイングリッシュ・スピーチ・コンテスト、高校2年生、3年生を対象としたイングリッシュ・プレゼンテーション・コンテストを実施している。上位入賞の6～10名には奨学金が与えられ、短期の海外語学研修に行くことができるというものである。



写真3 2014年度 イングリッシュ・プレゼンテーション・コンテスト

イングリッシュ・プレゼンテーションでは、まず大きなテーマが与えられ、そこから自分なりのテーマを考えて賛成、反対のどちらかの立場で述べる、という形が求められる。コンテストのために約半年前から英語科と司書教諭を中心に、テーマ探索、資料収集、アウトライン作成、英文原稿作成、パワーポイント資料作成、発表姿勢等の事前指導を行う。数度の予選を経て本選に進むことになるが、審査において最も重視されていることは、テーマの独自性や、どれだけ説得力があるかといった部分である。実際、適切な英文の作成や発音に関してはネイティブを含む英語科教諭の指導が受けられるため、それほど大きな差がつくわけではない。むしろ、自分の選択したテーマをいかに説得力ある構成で伝えていくかということが重要になる。加えて、参考文献に和書だけではなく英語文献（図書、新聞記事、雑誌記事等）を含めることが必須となっている。

#### 4 新聞記事データベースの活用

本来であれば最初から英語でテーマを考え、英語文献を収集していくか、あるいは日本語でじっくりと時間をかけてテーマを探索し、その後、英語文献を収集しつつ英文でアウトラインを考えていくか、どちらにせよテーマ探索と資料収集には長い時間をかけることが望ましい。しかしながら、通常の授業や部活動で忙しい生徒たちは、学校図書館を利用することでより効率のよいテーマ探索、英語文献探索方法を知りたいことを期待している。そこで事前指導の中で強く利用を勧めているのが、新聞記事データベースである。

例えば、「朝日けんさくくん」では、和英対照の社説、

天声人語を読むことができる。見出しから気になる社説を和英対照で読むことは、テーマ探索と資料収集とを同時に行うことになるばかりではなく、知りたいと思う英単語を入手することで、さらに違う資料を入手することにつながる。例えば、福島第一原発の廃炉に向けた和英対照の社説を読むことで、テーマと資料を入手できるだけでなく、「decommissioning nuclear reactors」という単語を知ることによって、次にそれを別の英字新聞記事データベースに入力して検索できるのである。英語力に自信のある生徒であれば、Google Scholarで検索することで学術論文を入手することもできる。また、英文社説1つを読むだけでも、関連する和文資料を読んだときに、英訳するための英単語や英文が全く思い浮かばないということはなく、すでに入手している英文記事で利用されていた英単語を活用して考えることができるようになる。

2015年度は「Happiness」という大テーマに対して、「Happy without casinos」「Adoption before birth」などのタイトルでプレゼンテーションが実施された。当時新聞紙面をにぎわした衆院でのカジノ法案提出や、特定養子縁組の特集等がテーマ決定にかかわっていることは間違いない。

#### 5 まとめ

英語文献の収集は、生徒以上に図書館にとって非常に悩ましい部分である。日本で販売されている洋書は、海外の語学専門出版社が英語学習者用に作成している段階別読みものや絵本等の物語が中心となっているため、英検2級、TOEIC450点程度で読める洋書で、社会科学や自然科学について書かれたものを揃えることにはかなりの困難が伴う。そのため、「朝日けんさくくん」などの新聞記事データベースで英文社説や英文天声人語が読めることは貴重である。本校では英字の日刊新聞の購読はしていないため、社会性のあるテーマを英文で探したいという生徒にとっては、非常に役立つものとなる。

データベースは使い方がわかるだけではなく、それを使って何ができるか、使ったことでどのようなメリットがあるのかを理解することが大切である。かつて、中学生に新聞記事データベースの利用法を説明する際、それぞれ自分の誕生日で検索させたこともあるが、その時間に楽しい思いをするだけで終わってしまい、なかなか自発的な利用にまでは結びつかなかった。一方、テーマ探索、英語文献収集の指導では、具体的な目的に対して便利なツールであるとの認識が浸透し、その後の自発的な利用が格段に増えた。そのように考えると、中学生や他の教科においても、新聞記事データベースはただ眺めるものとしてではなく、具体的に「使える」ものとして生徒に実感させていくための指導をすることが重要である。